

令和
6年度

COMPASS発達支援センター鹿児島

事業所における自己評価総括表(公表)

○事業所名	COMPASS発達支援センター鹿児島
○保護者評価実施期間	令和6年9月18日～令和6年10月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 11名 (回答者数) 11名
○従業者評価実施期間	令和6年10月17日～令和6年10月17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 4名 (回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年10月17日

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・具体的な細分化された独自のアセスメントシートを使用し、一人ひとりの発達状況に応じた支援計画を作成している。	・アセスメントシートを活用した個別の目標設定に努めている。	・ご家庭との連携を充実させ、支援の共有化を図り児童の成長を促していく。
2	・利用児童の課題や現状への理解を図るための定期的な支援会議を行っている。	・利用児童の課題に対して各職種の視点から支援に対する意見を出し合い、共通認識のもと支援に取り組んでいる。	・ご家庭や各関係機関との連携内容を支援会議に反映させたくえて、支援を充実していく。
3	・多機能型事業所であることを生かし、幅広い年齢層での関わりがある。「思いやり」の心の理解。	・幅広い年齢層の児童で集団活動を行うことにより、協調性や「思いやり」の心を育てている。	・集団での経験を重ねることで他者との適切な距離感や関わり方などの理解を促していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・地域交流の機会が少ない。	・利用児童の安全面・感染症・個人情報などを考慮し、実施できていない状況。	・地域の公共施設や関係機関と連携し、地域交流の情報収集に努め交流機会が制限されないようにしていく。
2	・保護者同士の交流の機会が少ない。	・プライバシー(個人情報)の保護。 ・過剰干渉の抑制(適切な距離感)。 ・交流の機会を望むご家庭もあるが望まないご家庭も多く、開催できていない状況である。	・少人数でのグループイベントなどを検討し、参加しやすい状況を作っていく。
3	・個別対応のためのスペース(個室)が十分に確保することが難しい。	・施設の構造上分割化および個室化ができない状況である。	・パーティションなどを用いて個別対応の際に活用する。 ・活動スペースの構造化と発達状況によって使用するスペースの分割化を行う。